

2019年度 高等部経営計画

1 運営方針 ～教育目標「ともにきらめく」～

生徒・職員 高等部 重点行動目標

挨拶 返事 報告

《基本的な考え方》

・出口を見据えた指導 → 社会への入り口を見据えた、広げる指導

- ・卒業後の地域での生活(活躍)する姿を考えて、1年間の指導に当たっていく。
- ・一般就労、福祉就労の両方に重点を置く。
- ・基本的生活習慣、日常生活の指導に重点を置いて指導し、身に付いた力の定着を図る。
- ・生徒を常に中心に考え(生徒にとっての幸せ)、保護者と連携し信頼関係を築き、生徒・保護者(学園)・福祉・学校の良い安定した関係を作っていく。
- ・発表の場を増やす。
- ・将来的に一般社会の中で生活することを目標に、指導のステップ化、方針をもって行う。
- ・5S(6S)を大事に 生徒も職員も
 - 整理(いらぬものは捨てる)
 - 整頓(物の置き場を決めて)
 - 清掃(日々こまめに)
 - 清潔(衛生・身だしなみ)
 - しつけ(挨拶・返事・報告や話の聞き方話し方、社会のルール、礼儀作法、望ましい生活習慣)
 - 習慣(上の5Sを習慣化し、継続する)

(1) 期待する姿 《学年目標》

- 【1学年】 **自主性**
- 【2学年】 **協調性**
- 【3学年】 **生きる力(達成感・成就感)**

- ・1年目は新しい生活、環境の中でのチャレンジし、何事にも取り組み、前進する、一步踏み出し取り組む姿を期待する。その中で、**自主性**を育てていく。
- ・2年目は、学級の中で、学年の中で、学校の中で自主性の定着と**協調性**を育てていく。
- ・3年目には、できることへの自信ともっている力の定着。生活していくうえでの**生きる力**を身に付けていく。また、生徒が力いっぱい取り組み、最後には「楽しかった。」(**達成感・成就感**)と見えるように支援していく。⇒仕事が楽しい。

③学習指導

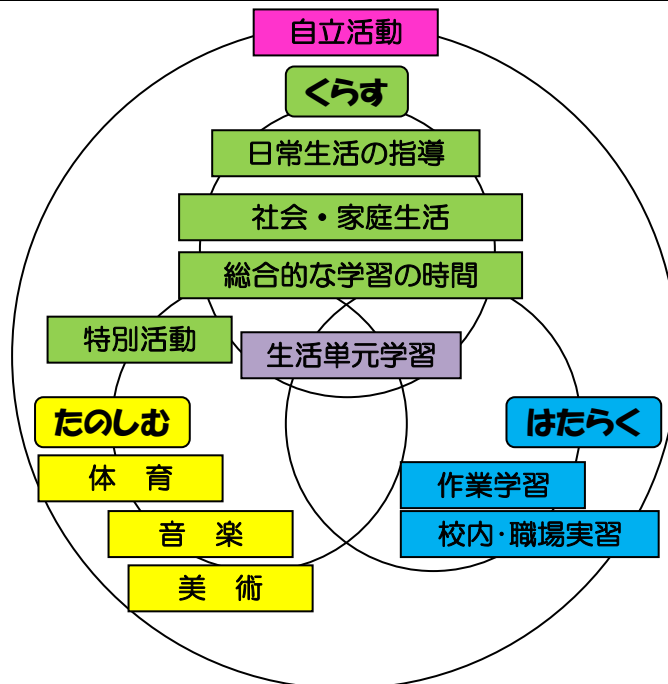
- ・個に応じた指導内容、活動内容の設定と、集団活動、体験活動の充実。
- ・生徒自ら考え、取り組む姿が見られる活動内容の設定や学習グループを工夫。

⑤進路指導

- ・進路指導部との連携と保護者への情報の提供。
- ・進路にかかわる話し合いの場の設定：進路懇談、進路説明会。
- ・進路に関する情報の収集と研修：進路研修会の設定、保護者向け講演会・説明会への参加。
- ・生徒、保護者の進路の考え方の確認と課題達成に向けての保護者等との協力体制の確立。
- ・生徒への『働く』意識の改革。
- ・地域に生きることを基本とした『個別の教育支援計画』の作成。
- ・生徒に向けての進路指導の時間の確保

2 高等部の教育課程について

出口を見据えた指導 → 社会への入り口を見据えた、広げる指導



○高等部で育てたい力

- ・高等部で育てたい力(知識、技能、態度)を『くらす』『はたらく』『たのしむ』に分ける。
【くらす】社会生活、家庭生活に必要な知識、技能、態度を育てる。
【はたらく】働くために必要な知識、技能、態度を育てる。
【たのしむ】余暇活動で個人でも集団でも楽しく過ごすことができる力を育て趣味を広げる。



学習内容の検討 グループ間の系統性

- 学習グループの会議(学習計画、個人目標、評価等)を設け、共通理解と仕事の振り分け等を行っていく。
- 『作業学習』は、働くための態度、知識、技能の育成を目指す。『はたらく』力の育成。作業班によっては、作業だけでなく『はたらく』ことについての学習も取り扱う。
- 『総合的な学習の時間』は、『人とのかかわり』『コミュニケーション能力』『課題解決能力』『自分が進んで学ぼうとする意欲や態度』を評価の観点とする。生徒が目指す力(評価の観点)を設定し、その力の育成を目指す。

3 運営計画

(1) 当校「目指す児童生徒像」に基づく平成31年度高等部の重点目標（学部目標）

【根気・意欲】

- 普** 自分の役割や責任を意識し、自ら進んで最後まで取り組む。
重 **自** 自発的に取り組めることを増やし、根気強く取り組む。

【かかわり・社会性】

- 普** 協調性をもって人とかかわる力や、作業活動に必要なコミュニケーション能力を高める。
重 自発的な意思表示の力や、他者からのかかわりを適切に受け止める力を伸ばす。
自 集団活動に参加する機会を増やし、他者からのかかわりを適切に受け止める力を伸ばす。
訪 快不快の意思表示をしたり、他者からのかかわりや様々な刺激を適切に受け止めたりする。

【健康】

- 普** 卒業後の生活に必要な身だしなみや生活習慣を身に付けるとともに、体力の向上を図る。
重 支援を受けながら、基本的な生活習慣を身に付け、楽しみながら体を動かす。
自 基本的な生活習慣を身に付け、みんなと一緒に体を動かす楽しさを味わう。
訪 規則正しい生活に心掛け覚醒リズムを整える。体の変形や拘縮の予防に努める。

普；普通学級 **重**；重複障害 **自**；自立活動学級 **訪**；訪問教育学級（今年度は所属生徒なし）

(2) 学部目標の達成に向けた授業

指導の形態名	指導の形態の目標
日常生活の指導	基本的な生活習慣に関する内容や集団生活をする上での内容について、生徒の課題を明確に設定し、生活の流れに沿って指導し、できることを増やす。
生活単元学習	行事単元を中心に課題解決学習として捉え、自分の役割や責任を意識し取り組む。人と協力し合いかわる力を育てる。
作業学習	働くための態度、知識の育成を目指し、技能面については、作業班に生徒を固定することなく、いろいろな班で作業を行っていく。『働く』ための自己選択、自己決定の力を育てる。
社会・家庭生活	卒業後の生活を想定し社会生活、家庭生活について必要な知識、技能、態度を育てる。より生活に即した読み書き、計算、金銭の取り扱いについての力を育てる。家庭生活では、『心と体』（性指導）について必要な知識やマナーを身に付ける。
音楽	余暇指導に重点を置き、音楽にふれ合う楽しさ、歌う楽しさ、演奏する楽しさを味わい、表現する喜びを知る。
体育	余暇指導に重点を置き、体を動かす楽しさ、集団で行うスポーツの楽しさを味わう。
美術	余暇指導に重点を置き、絵画、工作的な制作活動を行い、ものを使って表現する楽しさを味わう。
特別活動	集団活動への参加、交流活動、係活動を通して責任をもった行動ができるようにする。
自立活動	自立活動の『目標』『内容』をしっかりと把握し、生徒の課題を明確にし、教育活動全体を通して行う『自立活動の指導』、時間を設定して行う『自立活動の時間における指導』の中で指導に当たる。
総合的な学習の時間	校内・職場実習で、高等部の評価の観点の中から育てたい力をここに設定し、事前学習、実習、事後学習を通して力の育成、定着を図る。

○日常生活に関わる部分は、どの学級も学級を基本として活動しているが、学習活動の多く（職業教育にかかる学習活動、教科学習、ファイトタイム）は、生徒数及び生徒の実態に応じた実態別・課題別グループ学習の形態で取り組んでいる。

日課表

【校時表A】※1・2組

校時	時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	9:00~ 9:15	日常生活の指導（着替え・SHR）				
	9:15~ 9:35	ファイトタイム（ランニング・筋トレ・ウォーキング等）				
	9:35~ 9:50	日常生活の指導（身だしなみ、整理整頓）				
2	9:50~10:35	音楽①	社会・家庭生活	音楽②	社会・家庭生活	音楽③
		体育②		体育③		体育①
3	10:45~11:30	生活単元学習		生活単元学習		専門委員会
	11:30~12:30	日常生活の指導（配膳／清掃、給食）				
	12:30~13:00	昼休み				
4	13:00~13:45	作業学習	作業学習	作業学習	作業学習	生活単元学習
5	13:45~14:30					
6	14:30~15:00	日常生活の指導（着替え・SHR）				
		下校				

作業学習

* 4班に分かれて活動する。

農耕・木工班、リサイクル班、マット班、サービス班の4班。

※サービス班は、指導内容の系統性を考える。検定の時期は能力別にして実施してもよい。

(4) 年間授業時数

指導の形態名	領域・教科を合わせた指導				教科別の指導			領域別の指導		総合的な学習の時間	合計
	日常生活の指導	生活単元学習	作業学習	社会・家庭生活	音楽	体育	美術	特別活動	自立活動		
普通	415	115	160	115	30	90	30	80	—	175	1130
重複	415	115	160	115	30	30	30	80	60	175	1130
自閉情緒	415	115	—	—	30	30	30	80	410	175	1130